

## 令和5年度 幼児教育学科 F D研修会報告

期 日 令和5年7月18日(水) 15:00~16:30

場 所 短期大学部棟 A135教室

担 当 石野友子、村上知子(司会)

参加者 吉岡、太田、上野、ウエスタハウト、  
柴田、百海、中村、三浦、水上、森田、  
山田紀子、米川、喜多(書記)

テーマ

「保育実習指導者認定講習報告」より  
幼児教育学科における保育・教育実習についての共通理解と  
実習指導の在り方について考える

内 容

1. 学科長挨拶(太田)
2. 「保育実習指導者認定講習報告」より(石野)

「保育実習指導者認定講習」は、全国保育士養成協議会によって開催され、各養成校に1人は受講することが推奨されており、令和5年3月22日と23日の二日間、オンラインで講習を受けた。「保育実習指導のミニマムスタンダード2」の内容を中心に、講習と参加者のグループ討議で「実習指導」について意見交換なども行った。その内容について抜粋し、報告する。

開会の挨拶では、汐見会長「社会が人工化されると、適応できない人も出てくる。このような時代だからこそ、保育士の専門性がますます必要とされる」と述べた。厚労省からは、「昨今話題になっている『不適切保育』については、調査を進めるとともに、『保育者の資質向上』が柱になってくる。保育実習が、学生のみなさんにとって自らの意思を固めるような実習であることを願っている。そして、充実した実習のための『質の高い実習指導』をお願いしたいと話があった。

<グループ討議後の全体シェア>

- ・「実習について、学生にどう伝えていくか」については、どの養成校でも工夫している。
- ・また、実習に関しては、倫理綱領にある「児童の最善の利益を保障できる保育士」を養成するためにも、情報リテラシーが特に重要になってくる。  
→SNSや個人情報、保育者としての情報モラル、倫理観をどう育てていくかは避けて通れない。さらに、生成AIの活用なども、今後のテーマとして挙がってくるのではないかと。
- ・配慮の必要な学生について、個々の個性の尊重しつつ、かつ、保育者の資質向上を目指し、現代に合わせた方法で学生指導をしていかなければならない。
- ・こちらも、大事なテーマで、「園との関係」がある。  
→養成校だけでできないのが実習であり、それは園との信頼関係が大事になってくる。懇談会や実習訪問など、園との協働が大事なのももちろん、我々教員の一言が学生に与える影響は大きく、特に園への信頼



関係にもかかわる。

### 3. 実習に向けて、幼児教育学科として取り組むこと（村上）

—それぞれの科目を通してできること—

幼児教育学科として、実習園とどのように協働したら良いか、挨拶等の学生の実態を踏まえて今後の取り組み等についてグループで討議した。

<グループ討議後の全体シェア>

- ・出張講座などで園とのつながりを持って、お互いに見えやすく、言いやすい雰囲気を構築していくことが大切。
  - ・学生の挨拶が気になる。起立、礼がきちんとできない。廊下ですれ違っても挨拶をしない。顔を覗き込んでも挨拶ができない。日頃できていないと、実習でもできない。
- 毎日の継続、日頃の指導で、学生が主体的に挨拶できるようになってほしい。
- ・素直に謝ることができない。
- 社会性がない。実習では、このような態度が問題になってしまう。実習だけでなく、各科目の例えば提出に関して、明確に厳しく指導するなど対応する。
- ・実習の記録が書けないだけでは、あまり落ちないが、挨拶ができない、提出物が出せない等重なってしまうと落ちることにつながってしまうため、指導が必要だと感じている。
  - ・実習をイメージした形で授業を行うと、挨拶や約束事を守ることにしても、学生が意識して取り組むことができるのではないか。
  - ・学生との信頼関係の構築のため、できるだけ幼教全体での実習巡回ができれば良いのではないかと。
  - ・これまでの学生の中でも、1年生の挨拶は元気がないと感じている。学生の現状として、挨拶が大切だと伝えるだけでは行動できていない。心がほぐれるような工夫や、授業での挨拶、行事での発表など、意識的に声を出すような取り組みが必要だと感じている。
- 実習に通じる大切な1つのスキルとして、保育者養成における挨拶の重要性について改めて共通理解した。相手に伝わる気持ちの良い挨拶が身につくよう、教員は学生に挨拶の意味を伝え、幼児教育学科全体で、日常的な挨拶も含め意識的に指導に取り組んでいく。

### 4. まとめ

- ・保育実習の新たなミニマムスタンダードの構築に向けた継続的な取り組みを進めていくように、ということ、各養成校で取り組んでいかなければならない。
- ・そのためには、現場と養成校の協働が欠かすことができない。
- ・そして、今回の講習で何度も出てきた言葉だが、倫理綱領前文にある「児童の最善の利益を保障」のために、「各養成校の教員の専門性を活かし」「実習指導における情報共有を」願い、このFD研修会の実施に至った。